

優秀賞

都府県方面

高知県遊技業協同組合
「『県民を救命する崇高な社会貢献活動』を
テーマにした『愛の献血キャンペーン』」事業



高知県遊技業協同組合
理事長
秋 太海さん



献血バス内での献血

県民の救命に直結する
献血に一丸で取り組む

継続10年となった「愛の献血キャンペーン」

日本で病気やケガなどによって輸血を必要とする人は、現在、年間120万人ほどいると言われている。

輸血や血液製剤の製造が、健康な人が自発的に無償で血液を提供する献血によって支えられている以上、機会があれば献血に協力することは、命を守るうえでも貴重な社会貢献活動と言える。

「安全・安心なまちづくり活動の推進」、「青少年育成活動の推進」、「社会貢献活動の推進」など、地域に密着した各種の社会貢献活動に積極的に取り組んでいる高知県遊技業協同組合(以下、高遊協)では、2005年6月の理事会において、組合員が一丸となって参加できる社会貢献事業は何かという議論を行った結果、県民の救命につながる献血活動が最適との結論により、「愛の献血キャンペーン」と銘打った活動を実施することを決定した。この決定には、献血した血液の検査データにより、組合員の健康管理に寄与できるというメリットも背景にあったという。

「愛の献血キャンペーン」は、毎年、9～11月の3か月間、組合員ホール経営者や従業員が中心となり、高知県赤十字血液センターの献血バスを利用して実施されているが、昨年度は組合員ホールの駐車場のほか、市町村の公共駐車場などを借り、31か所で行われた。献血受付人数は243人、うち献血実施人数は217人となっており、このなかには遊技客や通行人も少数だが含まれている。

2005年のスタート以来、10年間にわたって「愛の献血キャンペーン」を継続していることが評価され、2015年3月には、高知県赤十字血液センター所長から高遊協の秋太海理事長に対して感謝状が贈られた。この10年間における実績は、献血受付人数3407人、献血実施人数2764人となっている。

社会貢献活動への強い思いで毎年参加する人も

高遊協では、当事業の実施にあたって、年度初めの定



「愛の献血キャンペーン」の告知ポスター

例理事会において実施計画を決議したのち、開催場所の選定や日程調整、開催場所への事前挨拶と説明、献血した血液検査データの送付などについて、高知県赤十字血液センターと事前打ち合わせを行っているほか、全組合員に対して事前に希望調査を実施して、献血参加人員を把握することに努めている。また、高遊協のホームページに実施計画を掲載したり、「愛の献血キャンペーン」のポスターを作成(昨年度は320枚)し、1ホールあたり3～5枚を配布して掲示してもらうほか、献血バスにも掲示している。

献血に参加した人全員に理事長のメッセージが付いたヤクルトセット製品(800円相当)が贈られるが、ホール駐車場などの主要な献血実施場所には高遊協の事務局職員も直接、駆けつけ、献血者へ謝意を伝えたり、ヤクルトセット製品の配布を行っている。

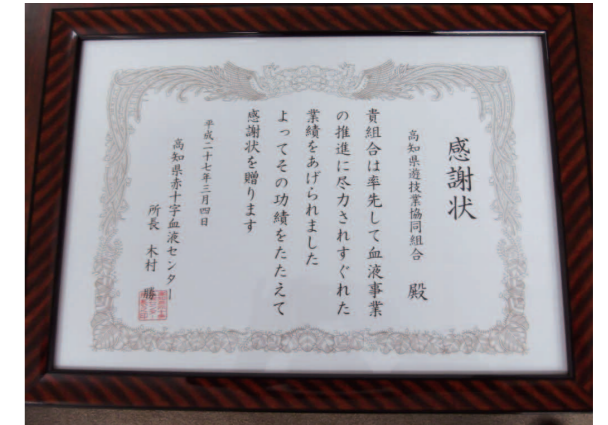
勤務時間を調整するなどして献血に参加した組合員や従業員からは、「自分が献血した血が誰かの命を救うことに役立っていると思うとうれしい」、「個人でもできる社会貢献活動なので、毎年参加するようにしている」といっ



献血をした人には理事長のメッセージが付いたヤクルト食料セットが贈られる

たコメントが寄せられているが、10年間にわたって継続しているのは、こうした参加者の社会貢献活動に対する強い思いがあるからにほかならない。

高遊協では、このほかにも社会福祉関係団体への寄付に継続的に取り組んでいるが、昨年12月には児童養護施設「子供の家」へクリスマスプレゼントとして、テレビ、掃除機、空気清浄機などの電化製品やトイレトペーパーなどの日用品合計30万円相当を寄贈した。



高知県赤十字血液センター所長からの感謝状